

\*\*\*\*\*

2013 年度 第 4 回 音環境運営委員会 議事録

記録：宮島

\*\*\*\*\*

- A. 日時 2014 年 2 月 21 日（金）17 時 00 分～19 時 00 分
- B. 場所 建築学会会議室
- C. 出席者 岡野利行（主査）、稲留康一、穴井 謙、岩本 毅、古賀貴士、佐久間哲哉、杉江 聡、田端 淳、中澤真司、永松英夫、濱田幸雄、平松友孝、平光厚雄、富田隆太（井上委員代理）、宮島 徹（幹事）、安田洋介（幹事）
- 欠席者 井上勝夫、坂本慎一、佐藤 洋、佐藤史明（敬称略）

D. 提出資料

2013 年度第 4 回音環境運営委員会議事次第

- No. 4-0 2013 年度第 3 回音環境運営委員会議事録（案）
- No. 4-1 2013 年度第 4 回環境工学本委員会議題
- No. 4-2 音環境運営委員会傘下小委員会予算執行状況・予定
- No. 4-3 2014 年度環境工学委員会 各委員会設置期間・予算額
- No. 4-4 建築基準法に基づく技術基準の見直し等に関する提案
- No. 4-5 「AIJES 集合住宅の遮音性能規準（案）」に関する意見書に対する回答書（案）、「集合住宅の音環境 AIJES に関する要望書」に対する回答（案）
- No. 4-6 集合住宅の遮音性能規準，集合住宅の遮音性能指針 査読結果票
- No. 4-7 2013 年度小委員会活動成果報告
- No. 4-8 環境工学委員会メールマガジンへの掲載について

E. 議事記録

1. 前回議事録の確認（資料 No. 4-0）

- 以下の誤字等を修正し承認された。

再細々分類⇒細々分類(p1)，整理⇒生理(p2)，研音研⇒建音研(p4)，運営委委員会⇒運営委員会(p4)

2. 環境工学本委員会の報告（資料 No. 4-1）

(1) 2013 年度大会報告

- 環境系の研究協議会，懇談会参加者は全体の中で多い方であった。研協はベスト 10 に入っている。資料は 1 年後にデジタルライブラリで無償公開される。
- VIP の招聘によって生じた問題とその申し送り事項について紹介された。VIP の招聘を妨げるものではないが、準備・運営に十分な注意を要する。

(2) 2014 年度大会

- プロ編は 4 月 22 日。従来どおり小委主査，運営委員会主査・幹事をお願いしたい。都合が悪い場合は代理を出してほしい。主査から改めて出欠を確認する。
- 環境系の研協（9 月 13 日 PM 都市再生における環境工学の役割），研懇（9 月 12 日 PM 今後の環境工学を担う若手研究者—私の研究スタイル），環境工学懇親会（9 月 13 日）の準備状況が報告された。

(3) 学会刊行物の英文版の刊行促進について

- 積極的に推進していきたいとのこと，AIJES も対象である。著作権の問題が生じないように既刊行物の翻訳

は原書籍の編著委員会が担当する、学会 WEB から PDF の有料ダウンロードを基本とする、国際交流振興基金から 1 刊行物あたり 50 万円の支援が受けられる等の紹介があった。

#### (4) 竹中育英会建築研究助成

- ・第 52 回(2013 年度)の交付者の紹介があった。全 10 件のうち、環境系 3 件、音環境 1 件。第 53 回(2014 年度)募集の紹介があった。

#### (5) 情報保障に関する費用支援の申請について

- ・常置調査委員会などで手話通訳が必要とされる場合には、予算があるので申請してほしい。

#### (6) 各種報告会・シンポジウム・講演会の案内

- ・2012～13 年度調査研究委員会活動報告：3 月 18 日（火）午前。環境系は田辺委員長が報告。
- ・東日本大震災 3 周年シンポジウム：3 月 11～12 日。
- ・第 27 回環境工学連合講演会：5 月 12 日に開催。AIJ が幹事団体。

#### (7) 委員委嘱について

- ・室内音響小委子どものための音環境 WG の委員として藤井先生（東洋大）ら 4 名が承認された。

#### (8) 音環境 AIJES に対する意見書・要望書についての報告

- ・企画刊行運営委員会に提出された回答書は 5 月 16 日の委員会にて審議を行い環境工学本委員会に上程する旨、佐土原主査（企画刊行運営委員会）より報告された。

### 3. 審議事項

#### (1) 論文集委員会委員の推薦

- ・本人の了解を得て、穴井先生（九州工業大学）を推薦することとした。

#### (2) 大会における若手奨励について

- ・2014 年度大会での若手奨励について、運営委員会毎に実施／非実施、方法等を本委員会に提案・報告することが求められた。
- ・主体が環境工学本委員会であること、奨学金審査における実効性、賞状など形に残るものが出されないこと、対象者をどのように明確にするか、等の疑問・問題点が示されたが、音環境運営委員会としては、実施する方向で本委員会に報告することとした。具体的な方法は次の通り。[対象]若手でおおむね 30 歳以下、[審査項目]研究内容、プレゼン、[審査員]司会者 1, 2, 及び運営委員会委員

#### (3) 環境工学メルマガへの掲載（資料 No4-8）

- ・「建音検索」広報のために環境工学メルマガへ掲載したい旨、中澤委員（企画広報 WG 主査）より提案があった。リンク URL を本文直後にする変更を行い承認された。

### 4. 報告事項

#### (1) 2013 年度予算執行について（資料 No. 4-2）

- ・2013 年度予算執行状況が報告された。残予算は予定通り執行してほしい。

#### (2) 2014 年度予算について（資料 No. 4-3）

- ・運営委員会全体の予算は 55.7 万円。各小委員会に配分したが、例年通り執行状況により見直しを行う予定。

#### (3) 建築基準法に基づく技術基準の見直し等に関する提案（資料 No. 4-4）（メール審議済み）

- ・提案した 2 件が報告された。

#### (4) 音環境 AIJES に対する意見書・要望書に対する回答書について（資料 No4-5）（メール審議済み）

- ・回答書を 2 つの刊行小委で作成、音環境規準検討小委にて承認、運営委員会メール審議で承認の後、企画刊

行運営委員会に提出した旨、報告された。

(5) 「集合住宅の遮音性能規準」, 「集合住宅の遮音設計指針」の外部査読結果報告 (資料 No4-6)

・ AIJES 作成フロー (2008 年版) に則り, 所属運営委員会である音環境運営委員会に査読結果が報告された。

(6) 2014 年度大会 OS について

・ グランドデザイン (小委), 学校音響と保育施設 (川井先生), スピーチプライバシー (清水先生), 国際戦略 (佐藤洋氏) の内諾を得ている旨報告された。4 件で OS は実施可能であることを事務局に確認した。

5. 各小委員会・WG の活動報告, 2013 年度活動報告・評価 (資料 No4-7)

① 固体音小委員会 (稲留主査)

・ 2013 年度は, ボール衝撃源のデータ収集, 傘下 WG では鉄道に限定せず固体音データの収集を行ってきた。文献調査の結果を固体音 HP に掲載した。自己評価は A。

② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会 (岩本主査)

・ 1 月 15 日開催。文献等から床衝撃音データを概観。室内静ひつ性能についての取り組み方を議論した。

・ 2013 年度は, 集合住宅室内騒音の時代変化調査と大会発表, WHO ガイドラインの調査・検討等を行った。自己評価は A。

③ 建築音響測定法小委員会 (杉江主査)

・ 1 月 10 日開催。委員の知識レベル統一のため, PU センサー代理店によるデモと質疑応答を実施。室内の音響エネルギー密度測定計画, インテンシティ測定に関する文献調査等を行った。

・ 2013 年度はフランキング, 室内の吸音性能測定方法, 実騒音による遮音測定法に取組み自己評価は A。

④ 室内音響小委員会 (佐藤主査: 欠席)

・ 活動成果報告書の概要を岡野主査が報告。自己評価は A。

⑤ 音響数値解析小委員会 (安田委員代理報告)

・ 12 月 16 日開催。インピーダンスデータの比較検討, ハンズオンセミナーの反省等を行った。

・ 2013 年度は, 境界条件データの収集, チュートリアル開催等の目標を順調に達成した。自己評価は A。

⑥ 音環境規準検討小委員会 (古賀主査)

・ 1 月 30 日開催。意見書・要望書に対する回答書, 第 2 査読者への回答のフォロー, 今後の AIJES の方向性, 大会 OS の内容等について議論・審議を行った。

・ 2013 年度は, 年度内に予定していた AIJES の出版が先送りになったことから, 自己評価は B とした。

→自己評価は A でよいのではないかという意見があり, 差し替えが可能か古賀委員が事務局へ確認する。

⑦ 企画・広報 WG (中澤主査)

・ 12 月 20 日開催。建音検索の広報方法, 建築学会からの既刊行物の調査方法等について議論を行った。

・ 2013 年度は, 建音検索の公開, 刊行小委の立上げを行い順調に目標を達成した。自己評価は A。

⑧ 集合住宅遮音性能規準刊行小委 / 集合住宅遮音性能指針刊行小委

・ 意見書・要望書に対する回答書を企画刊行運営委員会に提出。第 2 査読者を縄岡好人氏に依頼, 査読は終了し, 査読に対する回答について了解を得た。5 月 16 日企画刊行運営委員会に査読報告書と ES を提出し, 上記回答書と合わせ審議頂く。

6. 来年度の予定

・ 環境工学本委員会の日程提示ののち連絡。本年度と同様, 本委員会同日に開催する。次回は 5 月下旬予定。

以上